令和元（二〇一九）年度

「とちぎの百様」ジュニアコンクール入賞作品

目次

作文部門（優秀賞）
小学生の部・・・・・・・・・1
中学生の部・・・・・・・・・7

俳句・川柳部門（優秀賞）
小学生の部・・・・・・・・・13
中学生の部・・・・・・・・・13

絵画部門（優秀賞）
小学生の部・・・・・・・・・14
中学生の部・・・・・・・・・16

※各部毎に五十音順で掲載

作文部門　小学生の部

伝えたい日光東照宮の素晴らしさ

（日光東照宮様）

宇都宮大学教育学部附属小学校
四年　岩佐　葵

みなさんは日光東照宮に行ったことがありますか？今から四百年以上前に徳川初代将軍徳川家康公をまつるために造られた神社です。ユネスコの世界文化遺産にも登録されており、世界中から多くの観光客が訪れています。私も今までに五回以上参拝しました。まず目に入る大きな石鳥居、高くそびえる五重塔、その奥に表門も見えています。表門の左右には仁王像が安置されており、私は二人にあいさつをしてから門をくぐります。左側には神馬をつなぐうまやがあり、見ざる・言わざる・聞かざるの「三猿」の彫刻が人気です。少し歩くと迫力のある陽明門が見えてきます。陽明門は平成の大修理を経て、当時の輝きを取り戻しています。その先の白さが際立つ唐門の前を通り、奥宮へと向かう途中に思ったより小さい「眠り猫」の彫刻があります。奥宮までの道のりは想像以上に長く急な階段で、なんと二百七段もあります。奥宮を参拝した後はまた階段を一気に降りて御本社に向かいます。拝殿で目をつむり私の最近の出来事を報告します。これが私の「日光東照宮参拝コース」です。私のコースだけでも九か所の名所があります。境内には私が知らないもっとたくさんの見どころがあると思います。その全てが昔の人々の知恵と工夫で作られています。その素晴ら

しさと美しさをもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。もちろん、私ももっと何度も参拝し、境内のすみずみまで見て、観察して、調べて、日光東照宮名人になりたいと思います。

日光東照宮の素晴らしいところは造形の美しさだけではありません。それはいろいろなところに平和を願う意味がこめられていることです。たとえば、東照宮という名前は、家康が死後、神となり日本列島の東側から全国を照らし守っているということをあらわしているそうです。また、境内の様々な建物や柱に多くの人物や動物の彫刻がほどこされています。この彫刻にも平和への想いがこめられています。百年以上続いた戦乱の時代を終わらせ、その後二六四年も続く江戸幕府を創始、その中心を江戸（東京）においたことで、現在の東京の繁栄が始まったと言われています。こう考えると、栃木の誇りとしての日光東照宮ではなく、日本の誇りである日光東照宮と言ってもいいのではないでしょうか。そんな日光東照宮にすぐ行ける場所に住んでいる私は幸運だと思います。そして平和だからこそゆっくり参拝できるのだと思います。これからも平和な世界が続きますように、と今日も日光東照宮に参拝してきます。

おばあちゃんの日光ぼり（日光彫様）

下野市立吉田東小学校　五年　佐藤　初華

私がしょうかいするとちぎの百様は、日光ぼりです。

日光ぼりは、木に花などのもようをほり色をつけて作ります。私のおばあちゃんも、日光ぼりを習っています。おばあちゃんは、日光ぼりで、手鏡や鏡台などを作っています。初めておばあちゃんが作った日光ぼりの手鏡を見たとき、

「こんなにすごいもようをほれるんだ。」

とびっくりしました。手鏡の他にも鏡台も作ってくれたので、その鏡台のバラのもようを見てすごいと思いました。おばあちゃんがほってくれた日光ぼりのもようは、バラとイチゴで、とってもかわいかったので大切にしようと思いました。おばあちゃんが習っている日光ぼりが気になったので、くわしく調べることにしました。

日光ぼりは、もともと彫物大工が仕事のあいまに作った物が始まりだったそうです。彫物大工は、日光東照宮の彫こくをほっていました。私も遠足で、日光東照宮を見て昔の人は、こんなに細かくてきれいな彫こくをほっていたなんてすごいなと思いました。日光東照宮を作った人が、日光ぼりも作ったと知っておどろきました。日光東照宮は、世界いさんにも登ろくされているので、日光ぼりも日光東照宮と同じように、世界に自まんできる物だと思いました。このことを調べてから、日光ぼりを見てみると、昔の人々のちえや努力や思いが伝わってきました。私も、おばあちゃんにもらった手鏡や鏡台などを、友達にしょうかいしたい

と思います。学校では、外国語の勉強もしているので、外国の方々に英語で日光ぼりについてもしょうかいしたいと思います。おばあちゃんは、日光ぼりを見て感動して友達と教室にかよい始めて、手鏡や鏡台を作るようになったそうです。また、ほっているときは、大変だけどほり終わったときのたっせいかんや、友達にプレゼントするとよろこばれるので、それが楽しみで一生けん命ほっているそうです。私は、おばあちゃんの話を聞いて、日光ぼりをほってほった後のたっせいかんをかんじてみたいと思いました。日光ぼりの良さが、たくさんの人々に伝わるとうれしいです。

しもつかれを守りたい（しもつかれ様）

栃木市立大平南小学校　五年　田村　朱莉

私の住む栃木県には、昔から食べられている伝統的なきょう土料理しもつかれがあります。しもつかれは下野の国で作られ、にこんでから冷やし味をしみこませるのでしもつかれとよばれるようになったとも言われています。残った野菜や鮭の頭などをすてずにうまみや栄養を上手く引き出してあり、昔の人のちえもいっぱいつまっています。

私の家では毎年節分が終わるとお母さんが作ります。お母さんオリジナルのレシピがあり、私はそのおかげで小さいころからしもつかれが大好きで、初午の時にお赤飯と一緒に食べるしもつかれは本当に美味しいです。

学校でも年に一回給食でしもつかれが出ます。クラスの友達のほとんどはしもつかれがきらいと言います。味はもちろんですが、見た目が苦手なのだそうです。

でもこの見た目にはちゃんと理由があります。野菜から水分が出にくく、歯ごたえを残すために鬼おろしという目のあらいおろし器を使うからです。お母さんも作る時鬼おろしを使っていますが、何本も何本もおろすのは力がいるのでつかれるから大変だといつも言っています。それでも毎年必ず大きなおなべでたくさん作ってくれます。

作り始めるといつも亡くなったひいおじいちゃんが「ごちそうだなぁ。」と喜んでいたのを覚えています。昔二月ごろは食料が一番少ない時期で、残ったものをすてずに使って作ったのがしもつかれなんだとひいおじいちゃんは教えてくれ、だか

ら最高のごちそうなんだとどんぶりいっぱいのしもつかれを美味しそうに食べていました。

「残りものだけど栄養がいっぱいつまってるスーパーフードだから、朱莉たちにも食べてもらえるようお母さんもいろいろ工夫してこの味になったの。あとはじいちゃんたちの思い出がいっぱいつまってる料理だから大変だけど作ってあげるんだ。」とお母さんが話してくれました。

今の時代、食料が残ってしまい食べられるのにすててしまう食料ロスの話をよく耳にします。そうやってむだにすててしまわず、しもつかれのように食料を大切に使い、少しでもロスをへらす事はできないのだろうか？何かもっと工夫する事はできないのだろうか？これから私はそういう事を頭に入れながら、毎日の食生活を考えていかなくてはと思いました。

昔から「七けんの家のしもつかれを食べると病気にならない」と言われていて、しもつかれの味は家庭によって様々だそうです。だから私もいつかお母さんのオリジナルレシピでしもつかれを作れるようになりたいです。そして栃木のきょう土料理、スーパーフードのしもつかれの大切さや意味を守り、伝えていきたいと思います。

作文部門　中学生の部

中禅寺湖（日光の絶景様）

宇都宮市立星が丘中学校　一年　今森　篤史

僕は毎年友達の家族と三家族で、中禅寺湖の湖畔にある菖蒲ヶ浜キャンプ場に行っています。

中禅寺湖に行くまでの日光の道はとてもきれいで、特に秋は紅葉がとてもきれいです。それに山に近いのでシカやサルなどの動物もよく見かけます。

キャンプ場につくと毎回、目の前に広がる山に囲まれた中禅寺湖の絶景に見入ってしまいます。

このキャンプ場では、湖のすぐ近くにテントを張れるのでそこからカヤックをだして毎年楽しんでいます。カヤックは昔来た時に、湖でカヌーをやっている人を父が見かけ、羨ましくて買ったそうで、その後も色々キャンプ道具が増えていきますが、それほど『また次も行きたい』と思えるような絶景です。

カヤックでは毎回中禅寺湖にある浜のような場所を探して、そこに上陸しています。毎回別の場所を探すのでとても疲れますが、その分上陸した浜で持ってきたカップラーメンを食べながら、毎回違った場所から中禅寺湖を見れる昼食はそんな疲れを忘れるほど最高です。浜では他にも絵をかいたり、魚を捕まえたり、浜に名前をつけたりしています。キャンプ場に帰る時も、

「明日は、あそこに行こう！」

などともどる時も楽しいです。

キャンプ場にもどると、ちょっと早めの夜ご飯

ができていて、ダッチオーブンで作る『鶏粥』や、とても大きなステーキ肉を、バーベキューしたりと、とても普段の生活では食べないような料理がたくさんあり、ちょうど食べる頃には夕日が湖に反射して金色に光っている中禅寺湖が見れます。

夜は花火をしたり、マシュマロを焼いたりしています。また、夜の僕のお気に入りはハンモックに寝ながら星を見ることです。自然に囲まれた中なので、家のベランダで見る星とは違ってとてもきれいです。

朝日を湖の上で見ようと早く起こされ準備をしていると、テントのすぐ近くにシカがいました。一瞬焦りましたがシカの十歩前くらいまで行けました。野生のシカをそんなに近くで見ることは、なかなか無いと思うのでとても貴重な体験ができました。

まだ少し眠いまま湖に向かってこぎだしましたが、朝日の当たる位置に行き、まぶしいくらいに光る男体山を見ると眠気も吹っとびました。

男体山のふもとにある中禅寺湖、ここには季節ごとに違った色鮮やかな絶景、何度行ってもあきることのない新鮮さ、街中ではできない自然との触れあいなどたくさんの魅力があります。僕はこの中禅寺湖が大好きです。

鬱陶しいけど有難いもの（雷様）

宇都宮市立星が丘中学校　三年　玉置　法子

夏の夕方、急に黒い雲が増えて、涼しい風が吹き始めたら、要注意。雷様の登場です。私は中学で二年半、ソフトテニス部に入っていたのですが、夏の放課後、外で練習をしているときに、何度も雷雨に襲われました。もう部活動は引退してしまいましたが、あの、雨にぬれながら、慌てて道具を片付けた記憶は、鮮明に残っています。皆さんも、どこかへ出かけているときや、外で立ち話をしているときに、突然の雷雨にあった経験はあると思います。夏の夕立は、私達栃木県民にとって最も身近な自然現象だと思います。

そもそも、なぜ栃木県は雷が多いのでしょうか。その答えは、地形にあります。栃木県の北部には、千から二千メートル級の山岳部がつらなります。そして、夏季は、南からの風が吹くため、上昇気流が発生しやすいのです。つまり、栃木県の北部に山がある限り、栃木県から雷が消えることはないのです。突然やってきて、私達をずぶぬれにする、そんな雷様から、栃木県は逃れられないのです。

でも、私達は雷様を憎んではいけません。なぜなら、知らず知らずのうちに、私達は、雷様の様々な恵みを受けているからです。例えば、夏の夜の快適さが挙げられます。栃木では、夕方に雷様がやって来て、日中の暑さはすっかり消えて、夜は冷房をつけなくても快適に過ごせる日がたくさんあります。熱帯夜も、すぐ南の埼玉県が年に平均八・一日あるのに対して、栃木県は年に平均二・四日。三分の一以下です。雷様のお陰で、栃木県の夏の夜は、過ご

しやすいものになっているのです。

それだけではありません。栃木は産業の面でも雷様の恵みを受けているのです。それは、かんぴょうの生産です。栃木県は、国産かんぴょうの九十八パーセントを生産する「かんぴょう県」です。これほどかんぴょうの生産が盛んになった理由のひとつに、雷が多いから、ということが挙げられます。夏の夕方に発生する雷雨は、地表を冷やし、暑さに弱い夕顔の根を成長させているのです。つまり、雷様がいなかったら、栃木県は「かんぴょう県」とよばれるほど、かんぴょうの生産が盛んになることはなかったのです。

この二つの例をみると、私達が住んでいる栃木県に雷が多くてよかった、と思ってきませんか。雷様は、突然やってきて、私達をビショビショにする一方で、私達に様々な恵みを与えてくれているのです。私達、栃木県民は、この雷様による恵みをもっと知って、雷様に感謝するべきだと思います。そして、雷の多い県に住んでいることを誇りに思って生活するべきだと思います。

歴史と地域をつなぐ味（しもつかれ様）

下野市立南河内第二中学校
一年　谷田貝　美桜

皆さんは、「しもつかれ」は好きだろうか。栃木県の伝統的な郷土料理で、学校給食にも登場している。独特な味や香り、見た目から、私は小さい頃、完全な食わず嫌いであった。

私の祖母は、初午の日だけに限らず、可能な限り何度も大きな鍋でしもつかれを作る。だから、しもつかれの香りが漂う二月は、祖母の家に行きたくなかった。しかし、祖母と一緒にしもつかれを作ったことをきっかけに、その思いは変わった。

しもつかれは、新巻鮭の頭と煎った大豆、目の粗い竹製の大根おろし器の「鬼おろし」で粗くすりおろした大根と人参、油揚げなどの材料を酒粕と一緒に煮込んで調理し、最後に味を調えて仕上げる。鮭の頭には、魔よけの意味があり、節分の豆（福豆）は、福を呼ぶと言われ、材料ひとつひとつに信仰が込められている。私は、大根と人参を鬼おろしですりおろす作業を手伝った。

「疲れたー。手が痛くなったよ。しもつかれってこんなに作るの大変なんだね。」

この時、臭みをとる為に鮭の頭を焼くことや大豆は煎ってから入れるという細かい調理法を初めて知った。しもつかれは、想像以上に労力と時間を要する料理だったのだ。

「しもつかれは、じいちゃんもお父さんも大好きで、みんな楽しみにしているのよ。こんなに沢山作ってもあっという間に無くなっちゃうからね。大変でも作り甲斐があるんだよ。」

祖母は、笑顔で私にそう言った。私は、今までしもつかれを口にしようともしなかった自分を恥ずかしく、情けなくも感じた。この日、初めて祖母のしもつかれを食べた。給食に出るしもつかれとは、見た目も味も違っていた。温かい祖母の愛情の味がして、とても美味しかった。

郷土料理のしもつかれは、家庭によって製法・材料が異なり、受け継がれてきた味付けがある。味も見た目も様々であり、お裾分けでいただくしもつかれを食べ比べる事が、毎年二月の楽しみだと祖父母は言う。しもつかれには、「七軒のしもつかれを食べ歩くと病気にならない。」という言い伝えがある。私の家の隣近所でも、未だしもつかれを分け合う風習が残っている。

しもつかれは、正直好き嫌いが激しく分かれ、私のように食わず嫌いの人も多いのでないだろうか。私は、そんな人達に「美味しいよ。まずは食べてみて。」と声掛けをしていきたい。また、近年しもつかれを作れる人が少なくなっているようだ。私は、毎年楽しみにしている大切な人の為に、祖母のようにしもつかれを作れるようになりたい。給食のしもつかれや各家庭のしもつかれの食べ比べを通じて、地域のつながりや郷土に対する関心を深め、伝統あるしもつかれを伝承していきたいと思う。

俳句・川柳部門　小学生の部

垂れ藤や　光を灯す　冬の夜

（あしかがフラワーパーク様）

栃木市立赤麻小学校　六年　石川　乃愛

にっこりと　え顔あふれる　梨とぼく

（とちぎの梨様）

茂木町立逆川小学校　四年　新山　晴大

サルのまね　ついついしちゃう　東照宮

（日光東照宮様）

鹿沼市立楡木小学校　四年　渡辺　彩加

俳句・川柳部門　中学生の部

夕立ちや　大谷石塀　染まる青

（大谷石様）

文星芸術大学附属中学校　一年　大武　朋生

梨かじる　笑顔と果汁　あふれ出す

（とちぎの梨様）

那須塩原市立塩原小中学校　九年　塩谷　良花

炎天下　山があがるよ　蛇姫様

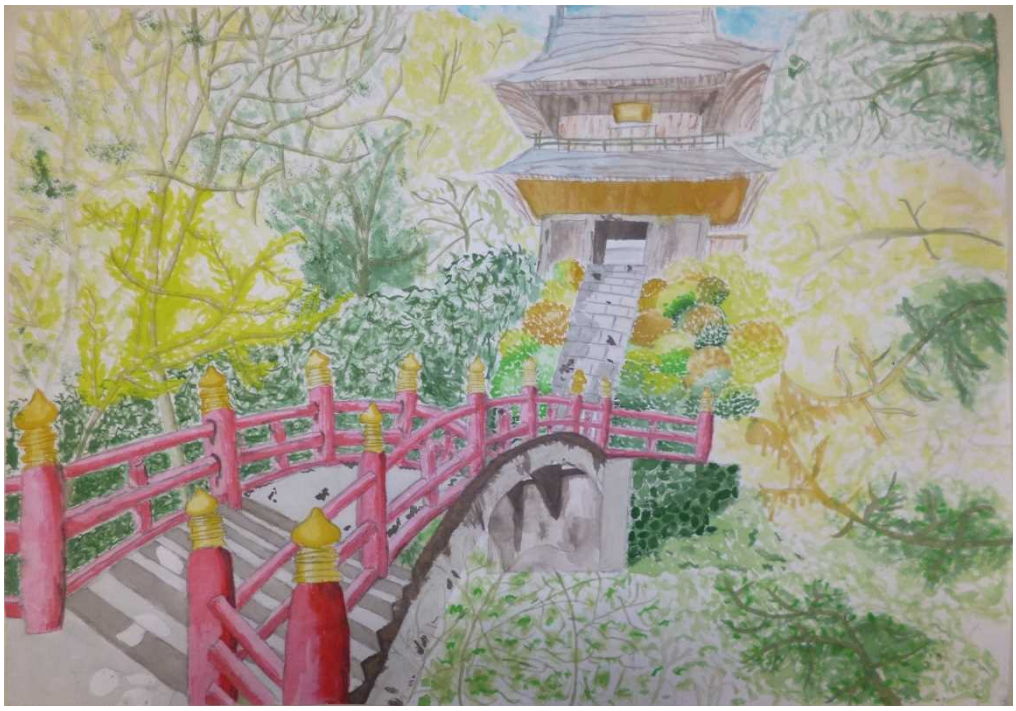
（那須烏山の山あげ祭様）

宇都宮市立横川中学校　二年　人見　光星

絵画部門　小学生の部

「雲巌寺」　（雲巌寺様）

益子町立七井小学校　六年　石川　凛

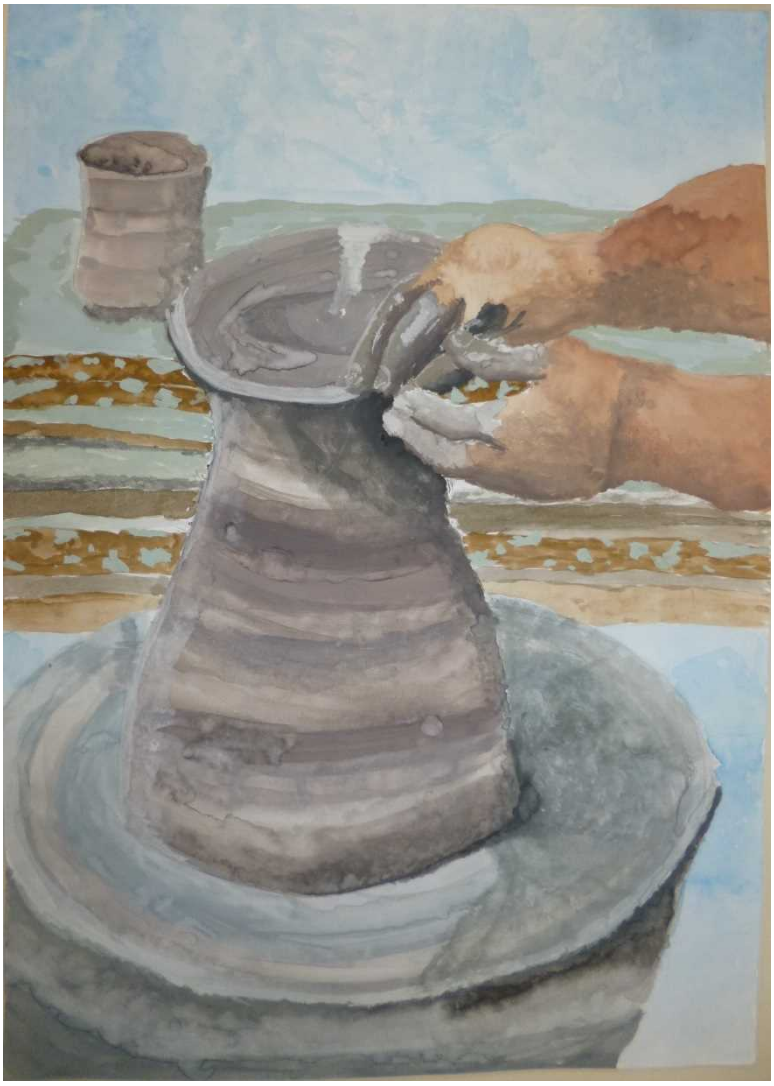


「近代建造物の基」　（野木町煉瓦窯様）

栃木市立藤岡小学校　五年　川村　陽菜乃

「祖父の腕」　（益子焼様）

市貝町立赤羽小学校　　六年　　白川　稀乃香



絵画部門　中学生の部

「太鼓橋から見る風景」　（鑁阿寺様）

栃木県立佐野高等学校附属中学校　三年　藤原　遼大

「圧巻の藤」　（あしかがフラワーパーク様）

栃木市立都賀中学校　二年　蒔田　夏恋

「芝ざくら」　（市貝町芝ざくら公園様）

栃木県立佐野高等学校附属中学校　二年　柳川　凛